

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

図書館だより

No. 39
2022.0ct.

The Oita Prefectural College of Arts and Culture Library Bulletin



表紙作品 『ゆく先は』

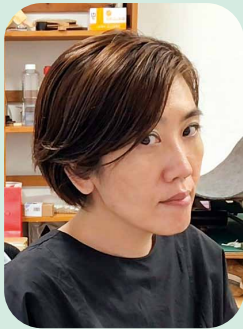
小田川 礼奈 (2022年 美術科卒業)

「絵を描く」というと筆を持って描くという固定観念がある。私はそれを破り、氷を使って出会ったことのない表現方法を探した。染料を混ぜた氷が溶けることで偶然による模様ができる。どのように氷が溶けたかぜひ考察して欲しい。

Contents

- | | |
|-----------------|------------------------|
| ① 新入生にすすめるこの一冊 | ④ こんな本が新しく入りました |
| ② AV視聴コーナーへ行こう！ | ⑤ 図書館職員注目の一冊 |
| ③ 学生選書ツアー | ⑥ 就活/資格・検定/シラバスコーナーの紹介 |

新入生にすすめるこの一冊



美術科

加藤 恵 先生

『モモ』

ミヒャエル・エンデ 作；大島かおり 訳 943/E59

今回、ドイツの作家ミヒャエル・エンデによる『モモ』をご紹介します。世界中で多くの方々に愛され、読まれてきた児童文学作品で、みなさんご存知かと思います。主人公の少女「モモ」が時間泥棒と戦う物語。時間貯蓄銀行に勤める灰色の男達、「成果＝利益÷（投下資本×時間）」という数式、モモが訪れた「時間の国」、読み進む毎に「合理性」とは何か、豊かさとは何かを考えさせられます。

ほとんど画集か専門書の私の本棚で、唯一、存在している小説で、時おりページを開いてしまう本の一つです。小学生の頃、初めて読んだ時は、時間泥棒がただの悪役で、深く考える事はありませんでした。20代、時間が貯蓄できるのならどんなに良いか、30代、本当に時間泥棒は居るな、改めて読むに連れ今の社会情勢と置かれている自身の環境とが繋がり、「物語」に今の「現実」が見えて来る作品です。コロナ禍の影響で、「時間」についてそれぞれが考え直す時代になってきました。自身の「時間」の使い方について改めて考えるきっかけとなる一冊ではないでしょうか。

(かとう めぐみ／グラフィックアート)



音楽科

遠藤 信一 先生

『不安定からの発想』

佐貫 亦男 [著] 538/Sa67

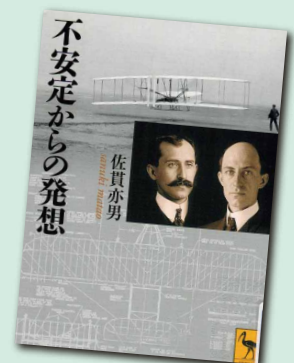
かつて書店内をフラついていた時、書籍名に物凄く引き付けられ、何が書かれているのかも分からないまま即購入した一冊。

ところで、私が機能と和音楽（早い話が調性音楽）を理解する上で用いる基本的な理論は2つ、「ゆれ」と「翳り」だ。ゆれの理論とは、振り子のゆれ（安定状態→様々な不安定状態→安定状態に戻る）のごく簡単な原理によるものである。実際に音楽では、和音構成音、和音、調など様々な段階でゆれが生じ、聴き手の心を翻弄する基となっている。音楽は複雑なようだが、このように至って単純な仕組みだ。

私は長い間様々な音楽作品を見てきてあることに気付いた。「時代・様式がどんなに変わろうが音楽の基本構造（ゆれと翳り）は変わっていない。さらに、音楽は不安定から安定へ戻る過程にこそ美がある！先人作曲家はそこに工夫を凝らしていた。各作曲家の語法を明らかにする鍵は不安定部分の解明だ！」と。

それ故に本書に興味を持ったのである。本書は、ライト兄弟がなぜ動力飛行機の初飛行を成し遂げたのか、分かりやすく書かれたもの。成功に結び付けた決め手は、正に不安定への着目だ。ライト兄弟はセンス抜群だ！自転車屋だったことも重要かもしれない。

(えんどう しんいち／エクリチュール)





国際総合学科

秋庭 淳志 先生

『図解&事例で学ぶプレゼンの教科書』

西脇資哲, カデナクリエイト 著 336.49/N87

「伝える」ことに関する悩みを抱えている学生とよくお会いしますが、伝える力は才能によって決まるのではなく、コツを知っていれば誰でも伸ばすことができます。今回は「伝える」を「伝わる」に変えるコツを学ぶ上で、読みやすく実践的な一冊を紹介します。

この本ではプレゼンの目的は「上手に話すこと」ではなく、「相手を動かすこと」と述べられています。注目すべき点は、話す自分ではなく相手を起点に考えている点です。人に何かを伝える時はどうしても話を伝えきることに意識が向きがちです。ですが、「相手を動かす」ためには、相手がどのような情報を求めているか、そして、その情報をどのような順序や話し方で伝えるべきか、相手を起

点に情報を設計することが重要です。例えば、広さを伝えたい場合は、「面積15ha」と伝えるのではなく、「東京ドーム3個分」と相手目線の表現に置き換えるとよいですね。

また、この本では文章を通して「伝える」際に重要なことも学ぶことができます。資料を使って人に何かを伝えようとするときは、情報を詰め込み過ぎて、重要な点がかえって見えにくくなることがあります。そのため、情報を「足す」のではなく「引く」ことを意識すると、より伝わりやすくなります。

伝える力は就職活動等の「相手を動かす」必要がある場面で皆さんの大きな力になります。この本を手にし、皆さんが「伝わる」コツを身につけるきっかけになれば幸いです。
(あきば あつし/経営学)



情報コミュニケーション学科

吉村 聡志 先生

『ドキュメント戦争広告代理店：情報操作とボスニア紛争』

高木 徹 [著] 391.3/Ta29

せっかくだったら最近読んだ本の中から…と思いつつ、未だに私を手放せないでいる本の中から一冊、この機会にご紹介させていただきたい。それはNHKディレクター高木徹氏が2005年に出版した『ドキュメント戦争広告代理店：情報操作とボスニア紛争』という本である。

この本の舞台は1992年のボスニア。1992年の春に始まり、95年秋まで続いた旧ユーゴスラビアの民族同士の対立「ボスニア紛争」では数十万といわれる命が失われた。

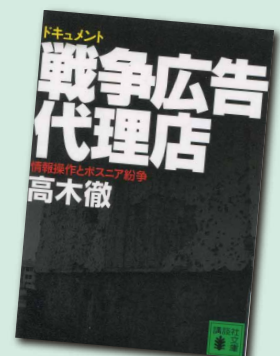
筆者の高木氏は「冷戦後の世界で起こる様々な問題や紛争は、当事者がどのような人たちで、悪いのは誰なのか、よく分からないことが多い。誘導の仕方次第で国際世論はどちらの側にも傾く可能性がある。そのために世論を敵にまわさず味方にしてお

く優れたPR戦略が極めて重要になってくる」と、アメリカのPR企業が「情報」という武器を使って戦争の行方さえも左右している国際政治の現実をこの本で描いている。

「メディアは何を伝え、そこに何が介在し、受容者は情報をどう解釈し、どのようにして世論が形成されていくのか」

出版当時、メディアに身を置き「伝える側」で取材現場を日々駆け回っていた私に、大いに刺激となったことを今でも覚えている。

ウクライナ問題が毎日のように伝えられている現在、18年前に出版されたこの本を再度読み直してみても色褪せておらず、SNSの登場で複雑化している現代メディア環境においても、この本が問うメディアの本質は変わらない。メディア論に関心のある学生はもちろん、関心のない学生も一度読んでみてほしい一冊だ。
(よしむら さとし/メディア論)



AV視聴コーナーへ 行こう!



美術科

中原 伸浩先生 おすすめのディスク

『2001年宇宙の旅』

1968年 アメリカ (DVD)

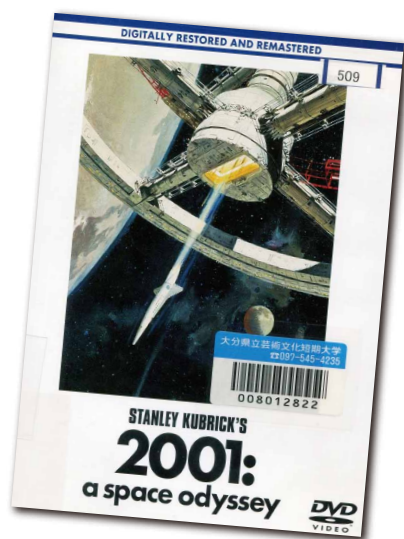


「わかるか」「」「字幕読めるか」「読めない速すぎる」「帰ろうか」「最後まで見る」

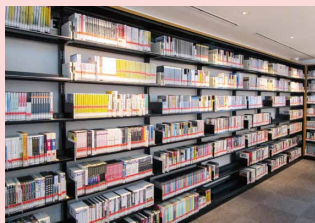
上映時間の途中で、休憩がありました。厚い扉の外で、父が途方に暮れています。帰りたいのは聞かなくてもわかりました。1968年。54年前。小学校4年になったばかりの4月、晴天の朝、新聞日曜版の広告で、未知の封切り映画を見ようと出かけることになったのは、当時最先端の、70ミリシネラマ方式立体映像を宣伝していた、有楽町駅近くの映画館、テアトル東京。いまはなき場所のお話です。

この映画を見ることは、特別なことのひとつになっています。内容について、少し書いてみたのですが、削除しました。普通に生活していても、あるとき人を根底から変え、人生に幾度もないような稀有な何かを授かることがある、と言われてますね。しかし、それがよいものであればあるほど、事前の知識や情報は、明澄な受容体を覆い、深い観照を妨げる大きな害になると思います。この作品はいまでも時折、現代の4Kなどの技術でリニューアルされ、上映されており、将来も見続けられて行くに違いない、映画史のひとつの頂点とされています。本当は是非、映画館で見た作品ですが、映画館で見るしかなかった当時、ほとんど誰も理解できませんでした。後世にその価値を見出されることは、人類の歴史を鑑みて明らかな、よい芸術である証の一つです。いまではいろんな風に解釈され説明されています。そのためにいくらかつまらなくなりました。ですからついでに書いておきます。解釈や説明を知らなければ、それは幸運です。わかるより、もっとずっとわかった、わからないのにはなくて、わからないからこそわかる、ということがあるのですね。この思いがけずのことは、字幕も読めない9歳の子供のそれからを変えました。映画が終わって音楽と共に映し出されたタイ

トルバックは、キャストの名前や文字のエンドロールばかりか、薄明の蒼い地平を覆う鬱蒼とした森、シュヴァルトツヴァルト?の上空5mを音もなく滑空していたのです。それがトランス状態の子供の幻覚だったと判明したのは20年後、待望していたキューブリックのビデオ解禁によってでした。(なかはら のぶひろ/油彩画)



<AV視聴コーナー>



学生選書ツアー

学生が図書館に置きたい本を選ぶ、本年度第1回目の「学生選書ツアー」（毎年2回実施）を6月、大分市内の書店で行いました。選んだ本のうち参加者が特におすすめしたいものについてコメントを寄せてもらいました。今回選ばれた96冊の本は、図書館入口の学生選書コーナーに並べていますので、ご覧になってください。

学生選書ツアーに参加して

美術科 2年 梅木 衣織

選書ツアーは学内の掲示を見て知り、前から気になっていた企画だったので、今回参加することができ、本当に良かったです。

選書ツアーに参加する前に、選書したい本が蔵書されていないか調べていくと、気になっていた本が既に蔵書されていたということが多々あり、その時点でも大学の附属図書館の書籍の豊富さに驚かされました。

ツアー当日では、書店という、本の「いま」がある現場に行き、そこにある熱量のようなものを、図書館に持ち帰ることのできる感覚は新鮮で、とても楽しかったです。私は美術が好きのため、美術に関する本を中心に選び、その中でも、長く手に取ってもらえそうな本を意識して選書しました。事前に

書店に下見に行き、選書する本は大方決めていたものの、当日では他にもよい本が見つかり、2時間があっという間でした。ツアーに参加して、最近では何でもすぐにインターネットで検索できる世の中ですが、こうして本のなかを歩き、自分の感覚を頼りに、本を手にとることの大切さを改めて感じることができました。

今回、自分が選書した本を図書館に置いてもらえることによって、図書館がさらに身近な場所になりました。選書ツアーは、とても贅沢で、素敵な企画だと思うので、迷われている方はぜひ参加をオススメします！

参加者が特にすすめる本のコメント

美術科 2年 梅木 衣織

『美術の物語』

エルンスト・H・ゴンブリッチ 著
702/G62

原田マハさんも推奨されている、美術史の入門書としておすすめの一冊です。美術史の本というと、堅苦しい言い回しが多い印象ですが、この本はそういった表現がなく、読みやすい言葉で書かれています。今“美術館巡り”などが注目されていますが、美術史について少し知識があるだけで、さらに楽しめると思います。



『和田誠展』

和田誠 [画]
和田誠展制作チーム 編
726.5/W12

イラストレーター、グラフィックデザイナーとして広く知られている和田誠さんの、83年の生涯の仕事が詰まった一冊です。本の厚みからも分かるように、とにかく膨大な仕事量に圧倒されます。『和田誠展』も2023年まで行っているそうなので、ぜひこの本を手にとって、興味を持ってもらえればと思います。



美術科 2年 江頭 優里奈

『ポスターアート集幻影： ローラン・デュリュウ 著 ローラン・デュリュウの世界』

727.6/D98

様々な映画のポスター制作に関わってきたローラン・デュリュウによる色彩の美術の数々を未発表の作品込みで見られる画集。『ジョーズ』、『シャイニング』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』……映像の歴史に刻まれてきた名作達を一枚のイラストによって表現する技術は必見である。



『Sukita eternity』

鋤田正義 著 748/Su54

写真家・鋤田正義氏によって写し取られた一瞬に、David BowieやIggy Popなどをはじめとする国内外のスターの表情、しぐさ、風景が大きな1ページに収められた珠玉の写真集。特にロックスターが好きな人にとっては忘れられない一冊となっているだろう。



専攻科音楽専攻 1年 井上 ありさ

『指導と評価がつながる！ 副島和久, 伊野義博 編著 中学校音楽授業モデル』 375.763/So22/2・3

音楽の指導案を作成するのに困っている方におすすめしたい1冊です。評価基準や題材目標、授業計画まで分かりやすくまとめられています。どの評価項目がどこに当たるかも表にまとめてあり、本当に参考になります。自分が教育実習の時に出会いたかったくらいです。ぜひ一度目を通してみてください！



『今夜、世界からこの恋が消えても』

一条岬 [著]
913.6/H13

7/29日から公開された映画の原作になります。切ない恋愛小説を探している方におすすめしたい本です。「当たり前」が当たり前にあるとは限らない。人にも自分にも優しく。今そばにいる人がいつも通りそばにいると思わず、後悔しないように大切に時を過ごそうと思える1冊です。



国際総合学科 1年 四元 瑠

『数値化の鬼：「仕事ができる人」に 共通する、たった1つの思考法』

今、各業界から絶賛されている話題沸騰のビジネス書籍です。この本書の本質的な目的は、客観視されたデータや情報から、自己啓発的に仕事や作業を修正し、分相応以上の結果を出すという視点にフォーカスを当てています。詳細は本書をご確認ください！

安藤広大 著
336.1/A47



『ハーバード・ジュリアードを 首席卒業した私の「超・独学術』

廣津留すみれ 著
379.7/H75

本書は大分の県立高校から、超名門校「ハーバード大学」に入学し、首席卒業の前人未踏の快挙を達成した女性の行動規範などを要約し体系化した独学術です。その内容を少し噛み砕くと、著者の徹底した「時間管理法」や「集中力」など有益かつ実利的内容が凝縮されています！気になった人はぜひ読んでみてください！



情報コミュニケーション学科 2年 谷口 莉子

『アオアシに学ぶ 「考える葦」の育ち方』

アオアシの中でもキーワードとなる「言語化」「自分で考えて動く」ということについて分かりやすく綴られています。視野を広げることの価値や意味を学べました。ビジネス面や日常生活でも大切なことや考え方を学ぶことができるため、サッカー経験者以外にもオススメです。

仲山進也 著
141.5/N45



『カスタード = Custard』 加藤元 著 913.6/Ka86

小さなお弁当屋とお客さんの心温まる短編集です。お客さんの抱える後悔に奇跡で寄り添う不思議なお弁当屋。お客さんに差し出す店主の思いが、心の傷を癒してくれる。それぞれが後悔とどう向き合うか、これからどうやって生きるのか。その大切さを再確認できました。



情報コミュニケーション学科 1年 長崎 桃衣

『神さまの貨物』 ジャン=クロード・グランベール 著 953.7/G89

戦争時の人々の悲惨な生活を舞台としながらも愛と希望に溢れた本当に美しいお話で、読み終えた直後は本が視界に入るだけで温かな気持ちと呼び起こしてくれます。文の量も少なく、童話のように始まる出だしと軽やかに綴られる物語のテンポのおかげでとても読みやすくなっており、読書が苦手な方にもおすすめできる一冊です。



『人間滅亡的人生案内』 深沢七郎 著 914.6/F73

初版発行が1971年という、50年以上も前に出された人生相談本。かつての人々が抱えていた悩みを見るだけでも楽しいのですが、それらに邪道極まる持論で軽快に斬り込む回答も見ものです。ともすれば反社会的とまで言われそうな思想が垣間見えるものの、毎日に息苦しさを感じている人には良い息抜きになるかもしれません。



情報コミュニケーション学科 1年 林海舟

『ガネーシャと夢を食べるバク』 水野敬也 著 913.6/Mi96/0

みなさんは今どんな「夢」がありますか？夢なんて無いという人が大半かもしれません。そんな人にお勧めなのが今作です。何故なら、夢の見つけ方について扱っているからです。ぜひ今作で、笑って泣いて、自身の夢と向き合ってみてください。



『バナナの魅力を 100文字で伝えてください』

柿内尚文 著
361.454/Ka26

今、こう思いましたね。「タイトルふざけすぎだろ」確かに、変わったタイトルです。しかし、内容はとても読み易く、ためになります。現代では、伝える力はとても重要視されています。この本で、そのいろはについて学んでみてはいかがでしょうか。



情報コミュニケーション学科 1年 角上 真優

『止まりだしたら走らない』

この作品は、東京にある駅を中心に進んでいきます。電車内で出会う様々な奇妙な人物を、モノクロで彩られた可愛い挿し絵と一風変わった視点で語られています。営業マン、教師、大学生。そんな身近な人物達は、貴方が今まで乗っていた退屈な電車の中を変えてくれるかも知れません。

品田遊 著
913.6/Sh57



『ちびちびうさまる： ふわふわだいすき』

sakumaru え
せきちさと ぶん
726.6/Sa45

この作品は、LINEスタンプでも大人気の「うさまる」の小さい頃を描いた絵本です。作者のsakumaruさんの描く、柔らかい雰囲気と、サクッと見れる絵本の組み合わせは可愛さの二乗なので、ぜひとも本を手に取り、うさまるの可愛さとふわふわの癒しにほっこりしてください！



こんな本が新しく入りました

2022年4月～9月までの新着図書の中から学科の先生が選んだ資料を中心に一部ご紹介します

学科	図書ラベル	書名	著者	学科	図書ラベル	書名	著者
美術科	069.04/H72	世界はさわらないとわからない：「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か	広瀬浩二郎著	音楽科	375.763/Sh49	これができる！音楽科の授業創り：すぐに使える指導案・ワークシート事例集	清水宏美著
	361.46/Ki56	帝国日本のプロパガンダ：「戦争熱」を煽った宣伝と報道	貴志俊彦著		763/D93	楽器の科学：美しい音色を生み出す「構造」と「しくみ」	フランソワ・デュボワ著
	589.77/H48	子どもを育む木製玩具のデザイン論	林秀紀著		769.3/H25	パッサを弾くためのバロック・ダンス入門：舞曲は踊る	浜中康子著
	674.3/Ka72	KASAI Kaoru 1968：図録葛西薫1968	葛西薫著		C/7922	Alfred Reed 100th anniversary [録音資料]	Alfred Reed
	702.16/Ko61	Tokyo popから始まる：日本現代美術1996-2021	小松崎拓男著		B3.29/Fle/CF	Scale system：scale exercises in all major and minor keys for daily study	Carl Flesch
	718/Mu48	駒澤大学仏教学部教授が語る仏像鑑賞入門	村松哲文著		B7.1/Rak/CF	Symphonic dances opus 45：two pianos/four hands	Rachmaninoff
	798/E12	かるた	江橋崇著		B8.42/MamY/Ne0 1/49-49/49	ベリーを摘んだらダンスにしよう = Berry and step a dance	間宮芳生作曲
国際総合学科	210.6/N52	歴史像を伝える：「歴史叙述」と「歴史実践」	成田龍一著	情報コミュニケーション学科	007.3/Ki68	ツイッターの心理学：情報環境と利用者行動	北村智、佐々木裕一、河井大介著
	374.12/Ki24	菊池省三365日のコミュニケーションゲーム：あたたかな対話を生む最高の教室	菊池省三、菊池道場著		130.2/N45	わたしたちはなぜ笑うのか：笑いの哲学史	中山元著
	519/Su19	エシカル革命：新しい幸せのものさしをたずさえて	末吉里花著		383.5/Ko11	身体文化・メディア・象徴的権力：化粧とファッションの社会学	黄順姫著
	801.2/O25	「もの」の意味、「時間」の意味：記号化に頼らない形式意味論の話	荻原俊幸著		410.9/F67	「集合と位相」をなぜ学ぶのか：数学の基礎として根づくまでの歴史	藤田博司著
	910.268/Sa28	坂口安吾大事典	安藤宏、大原祐治、十重田裕一編集代表		674/Sa75	SNS×メディアPR100の法則：お金をかけずに誰でもできる！	笹木郁乃著
	929.13/Mi35	僕の狂ったフェミ彼女	ミン・ジヒョン著		783.7/To67	統計学が見つけた野球の真理：最先端のセイバーメトリクスが明らかにしたもの	鳥越規史著
	290/Ka	街道をゆく：司馬遼太郎 [映像資料]			778(W)/Wa	私はあなたのニグロではない [映像資料]	ラウル・ベック監督
図書館	049/N69	奇跡の論文図鑑：ありえないネタを、クリエイティブに！	NHK「ろんぶ〜ん」制作班編著	図書館	689/F76	「無理しない」観光：価値と多様性の再発見	福井一喜著
	141.27/H68	時間はなぜあるのか？：チンパンジー学者と言語学者の探検	平田聡、嶋田珠巴著		757/U45	マイ・ファースト・リチ：上野リチのデザイン	青幻舎編集部編
	345/Ta33	桃太郎のきびだんごは経費で落ちるのか？：日本の昔話で身につく税の基本	高橋創、井上マサキ著		837.5/A79	ロックスターの英語：インタビュー集2015～2020	
	461/I52	生き物が大人になるまで：「成長」をめぐる生物学	稲垣栄洋著		986/A41	戦争は女の顔をしていない	スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ [著]

図書館職員注目の一冊

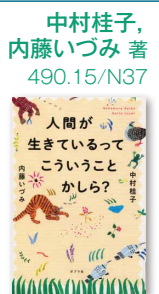
『科学的思考のススメ：「もしかして」からはじめよう』 牧野悌也 [ほか] 著 141.5/Ma35

人の意見や主張を「なんとなく」判断していると、流されたり、騙されたりしてしまう事もあります。そうならないためには、「意見や主張は、根拠や理由といっしょに！」科学的思考によって、社会で求められる人間力の基礎が身に付き、理系文系に関係なくよりよい人生の「選択」をするために役立つ一冊です。 (さんのみや)



『人間が生きているって こういうことかしら？』 中村桂子、内藤いつみ 著 490.15/N37

生命誌研究者の中村桂子さんとホスピス医の内藤いつみさんによる「いのち」をめぐる対話集です。生命に深く関わってきたお二人は「私たち生きものの中の私」としての人間の生き方について、あたたかく語り合います。「いのち」のつながりとふつうに生きていることの素晴らしさを思い出し、心が安らぎました。 (いわたと)



『100万回死んだねこ：覚え違いタイトル集』 福井県立図書館編著 015.2/F76

福井県立図書館HPの人気コンテンツ「覚え違いタイトル集」の書籍化。たかがタイトル、されどタイトル。ほんの少し違うだけで、検索機能は無力と化す。司書の能力と根性が試された事例の数々。人の記憶の曖昧さに慄きつつ、正しいタイトルは何か、ぜひ挑戦してみてください。検索の際のコツも学べます。 (はさま)



『レンタルなんもしない人の なんもしなかった話』 レンタルなんもしない人 著 916/R27

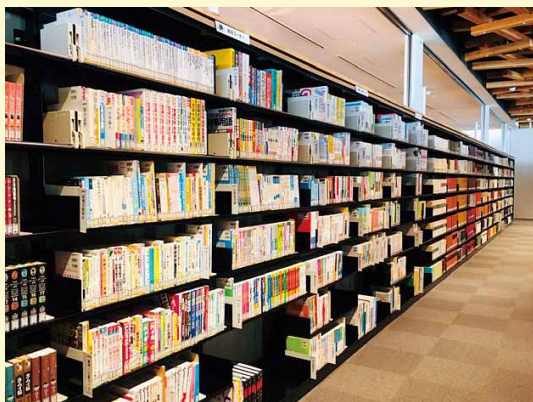
ツイッター発、ただ一人分の人間の存在だけが必要なシーンで利用できるサービス「レンタルなんもしない人」客観的になんもしない人ではないけれど、著者の主観でなんもしない人。他人だから頼みやすいことってありませんか？なんもしないのに起こる出来事にほっこりできるノンフィクション・エッセイです。 (かたやま)



図書館をもっと活用しよう！ 就活／資格・検定／シラバスコーナーの紹介

図書館には学生の皆さんがよく利用する資料をまとめて配置しているコーナーがあります。
今回は「就活」、「資格・検定」、「シラバス」の各コーナーと資料の一部を紹介します。ぜひお役立てください！

◆「就活」、「資格・検定」、「シラバス」の各コーナー



開架フロアの手塚文庫の右隣から「就活コーナー」、「資格・検定コーナー」、「シラバスコーナー」の順に配置しています。
この3つのコーナーに並んでいるほとんどの資料は貸出可能です（背表紙に禁帯出シールが貼られている資料は館内でご利用ください）。

◆ 就活コーナー資料



就職活動に役立つ資料を置いています。
就職活動読本（就活の進め方）、面接対策、エントリーシートの書き方、マナー・話し方、業界・仕事ガイド、『なるにはBooks』（職業ガイドシリーズ）、一般常識、公務員試験、SPI・適正試験の問題集、大学編入に関する本など。

◆ 資格・検定コーナー資料



資格・検定の取得に役立つ参考書や級別の過去問題集を置いています。
英語検定、TOEIC、韓国語検定、中国語検定、フランス語検定、ドイツ語検定、日本語検定、日商PC検定、日商簿記検定、秘書検定、ITパスポート試験、ビジネス著作権検定、世界遺産検定など。

◆ シラバスコーナー資料



本学で開講している授業の内容などをまとめたシラバス（授業ガイド）掲載の参考図書を置いています。
授業の課題や予習・復習に、ご利用ください。

本や楽譜などの資料の
購入リクエストはMyOPACの
購入希望 から受付しています！

ただし、ライトノベル等当館の収書方針に合わない
資料は購入を見合わせています。
まずはリクエストを送ってみてください！



ほん太

大分県立芸術文化短期大学附属図書館
図書館だより No.39

発行日 2022年10月25日発行
編集・発行 大分県立芸術文化短期大学 附属図書館
〒870-0833 大分市上野丘東1番11号
TEL・FAX (097) 545-4235
<http://www.oita-pjc.ac.jp/library/>
図書館キャラクターデザイン：若杉郁子